

## ◆フェーズ2（実証実験）進出チーム【計4チーム】

### チームさつまいも（チーム1）

- ・メンバーの興味・関心の高かった「高校教師の多忙化」を社会的課題に設定した。
- ・多忙化の原因は、「教材研究（授業準備）に多くの時間がとられているため」であり、その時間を効率化することで課題解決に繋がるのではないかと仮説を立てた。
- ・仮説を検証するため、アンケート及びインタビューを実施。その結果、教師にとって教材研究の時間は大切であり、どんなに忙しくても教材研究の時間は確保する必要がある。しかし、会議の出席や部活動の指導・監督に時間がとられ、結果的に残業（多忙化）に繋がっていることが判明した。
- ・そこで、部活動の顧問をする教師をターゲットに、生徒の自主性を養成することで負担を軽減する（＝多忙化を解決する）事業プランを考えた。
- ・3月には、考えた事業プランを基に関西大学高等部のサッカー部とバスケットボール部の協力のもと実証実験を行い、各顧問からフィードバックを受けた。



（バスケットボール部での実証実験の様子）



（実証実験後にサッカー部と記念撮影）

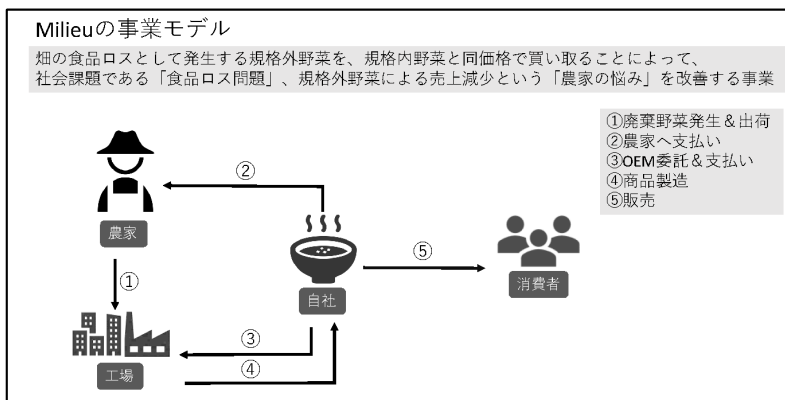
### ジャパンコール（チーム4）

- ・当初は「社会人の心の健康が保たれていない」ことを課題として捉え、解決策として「褒める（サービス）」に着目。実際に社会人を対象にインタビューを実施したが、「心の健康」という定義は人それぞれで目指すゴールが明確ではないことから、思うように方向性が定まらなかった。
- ・その後、一人暮らしの大学生の食生活が乱れがちであることに気づき、「心の健康」から「大学生の食の健康」にシフトチェンジし、具体的な解決策として、栄養価の高い「米粉タコス」を販売するという結論に至った。「米粉タコス」の特徴はスライド参照。
- ・他の塾生を対象に試食会を行い、その後販売方法についてチーム内で検討を重ねた。

<p>1. 商品・サービスについて</p> <p>【ターゲット】</p> <p>「多忙の一人暮らしの大学生」</p> <p>仕送りや奨学金で生活 <math>+</math> バイトやサークルが忙しい <math>\rightarrow</math> 慢性的な栄養不足</p> <p>＝金銭面での制限      二時間の面での制限</p>	<p>米粉タコスの特徴</p> <table border="0"> <tr> <td data-bbox="813 1675 981 1944"> <p>【栄養面】</p> <p>米粉（炭水化物） ・エネルギーを生み出す</p> <p>肉（タンパク質） ・筋肉を作る</p> <p>野菜（ビタミン） ・体の調子を整える</p> </td> <td data-bbox="989 1675 1204 1944"> <p>【長期保存】</p> <p>サルサをペースト状に <math>\rightarrow</math> 長期保存が可能に</p> <p>食品ロスを少なくできる</p> </td> <td data-bbox="1212 1675 1458 1944"> <p>【米粉】</p> <p>グルテンフリー</p> <p>日本人の体に適している</p> </td> </tr> </table>	<p>【栄養面】</p> <p>米粉（炭水化物） ・エネルギーを生み出す</p> <p>肉（タンパク質） ・筋肉を作る</p> <p>野菜（ビタミン） ・体の調子を整える</p>	<p>【長期保存】</p> <p>サルサをペースト状に <math>\rightarrow</math> 長期保存が可能に</p> <p>食品ロスを少なくできる</p>	<p>【米粉】</p> <p>グルテンフリー</p> <p>日本人の体に適している</p>
<p>【栄養面】</p> <p>米粉（炭水化物） ・エネルギーを生み出す</p> <p>肉（タンパク質） ・筋肉を作る</p> <p>野菜（ビタミン） ・体の調子を整える</p>	<p>【長期保存】</p> <p>サルサをペースト状に <math>\rightarrow</math> 長期保存が可能に</p> <p>食品ロスを少なくできる</p>	<p>【米粉】</p> <p>グルテンフリー</p> <p>日本人の体に適している</p>		

## Milieu (チーム5)

- ・メンバーのうち2人が農家であり身近な問題であったことや、統計データが記録されておらず問題視されにくいという点から、「農作物の生産現場で発生する食品ロス」を社会的課題に設定した。
- ・食品ロスの現状把握のために複数の農家にインタビュー調査を実施し、「規格外野菜の発生による売上損失」が農家の悩みであることが判明。そこで、食品ロスと同時に解決できる手段の検討を開始。
- ・規格外野菜活用の現状調査をした結果、「規格外野菜を使用したフリーズドライ味噌汁の販売」であれば、数種類の野菜を使用でき、また長期保存が可能で栄養価が損なわれにくいいため、適切だと考えた。
- ・また、フリーズドライ味噌汁に使用する規格外野菜を、農家から規格内野菜と同価格で買い取ることで「規格外野菜の売上損失」を解決できるのではないかと仮説を立てた。これにより仕入れ額が上昇するが、特産野菜を使うことで商品に付加価値を与え、売値を上げることで利益を確保できると考えた。
- ・今後、農家やフリーズドライ加工会社の協力を得ながら実現可能性をさらに検討し、商品化を目指す。



(白ハト食品工業株式会社訪問時)

## ETHOS (チーム6)

- ・メンバーの興味・関心から「アパレル産業による環境問題」を社会的課題に設定。調査の結果、根本的課題として「大量生産・大量消費・大量廃棄」であることを確認。解決策として、アップサイクルサービス（具体的には顧客がアップサイクルしたい衣服を撮影、サイトにアップロード、顧客自身がサイトでデザインし、気に入れば衣服を縫製工場へ郵送、工場で製造された商品が顧客に届く）を考案。
- ・企業やアパレル関係者にインタビュー調査を行い、サービスの実現可能性を確認した結果、サービス内容が小ロット・多品種であるため、縫製の難易度や原価の上昇などの問題点が浮上。そこで、事業内容を「ジーンズからバッグへのアップサイクル」に絞った。加えてアンケートを実施し、一定の需要が見込めることを確認した。
- ・アップサイクル商品が実際にどの程度購入されるかを確認するため、ジーンズからバッグにアップサイクルしたバッグ（既製品）の販売に着手した。3月にECサイトでの販売を開始する予定で、販売の結果次第では商品のレパートリー増加やクラウドファンディングに加え、当初想定していたサービスの拡大を目指す。



## ◆フェーズ1（仮説検証）進出チーム【計2チーム】

### castaña（チーム2）

- 海外旅行に積極的な者がいる一方で、語学に不安を感じて消極的な者がいることに疑問を抱き、高校生及び大学生を対象に、英語の学習意欲に係る調査を実施。その結果、「英語力を向上させたい」と考える者は9割以上を占めたものの、時間や金銭的な余裕がないことを理由に、積極的に英語学習に取り組めていないことが判明。
- どのようなサービスがあれば意欲的に英語学習に取り組めるかの議論を重ねたが、競合他社のサービスと差別化が図れない等を理由に、課題を再設定することになった。
- 調査を経て、新たな課題として「来日した外国人が、言語の壁により、日本人と十分なコミュニケーションをとれていないこと」を設定。そこで、言語の壁を感じる場所の一つ「飲食店のメニュー表示を工夫することで、コミュニケーションの向上に繋がる」という仮説を立てた。
- 関大前駅や十三駅の周辺・道頓堀商店街の飲食店、計12店舗にヒアリングを行った結果、メニュー表示の工夫を求める声は少なく、コミュニケーションの向上には、日本の文化に触れてもらうことや、日本での思い出づくりのほうが重要ではないかという意見があった。

### アンケート内容

実施店舗：十三2店舗、関大前3店舗、道頓堀7店舗  
(仮説検証のため十三や関大前等個人店舗にも取材)

質問内容：外国人対応したメニュー表の有無  
メニュー表を用意しない理由  
メニュー表はあるが改善したい点  
外国人対応で困っていることはないか



### 得たこと

外国人は完璧な翻訳を求めている  
店員さんなどのコミュニケーションにより本物の日本語に触れることが嬉しい

新たな課題：お店は従業員とのやり取りで困難に感じていることがある  
会計時にトラブルが起きていることもある

### Focus Me（チーム3）

- 活動当初は、「日本人は自己肯定感が低い」ことを社会的課題として設定した。しかし、自己肯定感が低いことは果たして課題なのか等の疑問が浮上し、課題を見直すことになった。
- 新たな課題として「就職活動に対する不安を抱えている学生が多いこと」に着目。解決策として、「就職活動中の関大生限定のコミュニティサイトを作成し、就職活動に不安を抱える者へのアドバイスや、ネットには掲載されていない有益な情報を共有すること」を考えた。
- しかし、取り組む課題の難易度が高く多くの問題点が浮上し、思うように活動が進まなかった。最終的に、インタビューを実施のうえ、再度仮説（再設定した課題は以下のスライドを参照）を立て直した。

2.活動内容について  
2/9~

空き教室の利用について  
インタビューを一回生から四回生まで実施

The image shows two open spiral-bound notebooks. The left notebook has handwritten notes in Japanese, including a list of names and dates. The right notebook also has handwritten notes, including a list of names and dates, and some diagrams or flowcharts. The text above the notebooks indicates that interviews were conducted with students from the first to fourth years regarding the use of empty classrooms.

\* 仮説 \*

学生が空き教室を利用する目的やメリットが  
明確でなく、複雑化している。  
また、空き教室という有用なものをそもそも知らない学生も存在している。

空き教室の利用動機を高めることで、友人と勉強  
しやすい空間を作ることができる。

詳細のページに戻る

The image shows a slide with a grid background. It contains a hypothesis in Japanese. The hypothesis states that students' purposes and merits for using empty classrooms are unclear and complex, and that some students do not even know about empty classrooms as a useful resource. The slide suggests that by increasing the motivation for using empty classrooms, it is possible to create a space where students can study with friends. There are blue decorative flourishes on the slide.